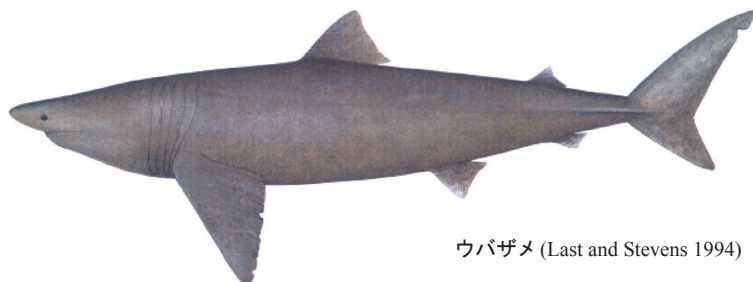


ウバザメ 日本周辺

(Basking Shark, *Cetorhinus maximus*)



ウバザメ (Last and Stevens 1994)

最近一年間の動き

世界的には、特に目立った動きは見られなかった。また、最近一年間の日本周辺での出現は、静岡県駿河湾奥で定置網に入った一例が報告されている。

利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料に、皮は皮革製品として利用される。肉は生肉や干し肉として食用になる他、家畜飼用のフィッシュミールにもなる。肝油は工業用、化粧品用等に利用される (Springer and Gold 1989, Compagno 2001)。

漁業の概要

わが国では1960年代後半から1970年代にかけて、三重県波切で突き棒漁業により漁獲され、その肝臓が利用されていたが、最近ではまったく行われていない。現在ではウバザメは東北から北海道沿岸の定置網に春から秋にかけてまれに迷入があるほか、全国各地の定置網で迷入が観察される程度である。漁獲が稀であること、市場価値が低いことから、その後の処理は市場に上げられたり放流されたりとばらばらであり、公式な漁獲統計はほとんど残っていない。

生物学的特性

【分布】 ウバザメは全世界の温帯海域から寒帯にかけて分布しており、沿岸から沖合にかけて生息している (図1)。まれに熱帯海域にも出現するが迷入のような状況と考えられ、出現例は少ないといわれている。西太平洋では台湾が南限となっている (Compagno 2001)。日本近海の太平洋岸では春から夏に出現し、日本海側では冬から春が多い。最南端の沖縄での出現例は7月である。ウバザメは太平洋の東西両岸で出現するが、東西の交流等に関しては不明である。また北大西洋の両岸に出現する本種の関連に関しても不明である。

【産卵・回遊】 小型個体の出現例や調査例は少なく、19世紀中頃に最小遊泳個体1.65 mという記録がある (Bigelow and Schroeder 1948)。このことから、出生体長は全長1.7から1.8 mと推定される。絨毛状組織におおわれた内壁を持つ子宮の性状や分類学的にネズミザメ目に属するサメとの類似などから、胎生で卵食性であろうと推定されている (Matthews 1950, Compagno 2001)。

【成長・成熟】 ウバザメ雄の性成熟体長は6.4~7.4 m、年齢は6~8歳であり、雌の性成熟体長は不明であるが、妊娠期間は3.5年であろうと推定されている (Parker and Stott 1965)。これは、北大西洋東部で脊椎骨椎体の成長輪を調査した結果に基づく推論である。成長輪2本を1年とした結果であるので、1本1年の可能性も考えられ、雄の成熟年齢は12~16歳ではないかとの意見もある (Compagno 2001)。Bigelow and Schroeder (1948)は体型の変化、クラスパーの状態や精巣の調査例などから、雄の性成熟全長は4.6~6.1 mとしている。

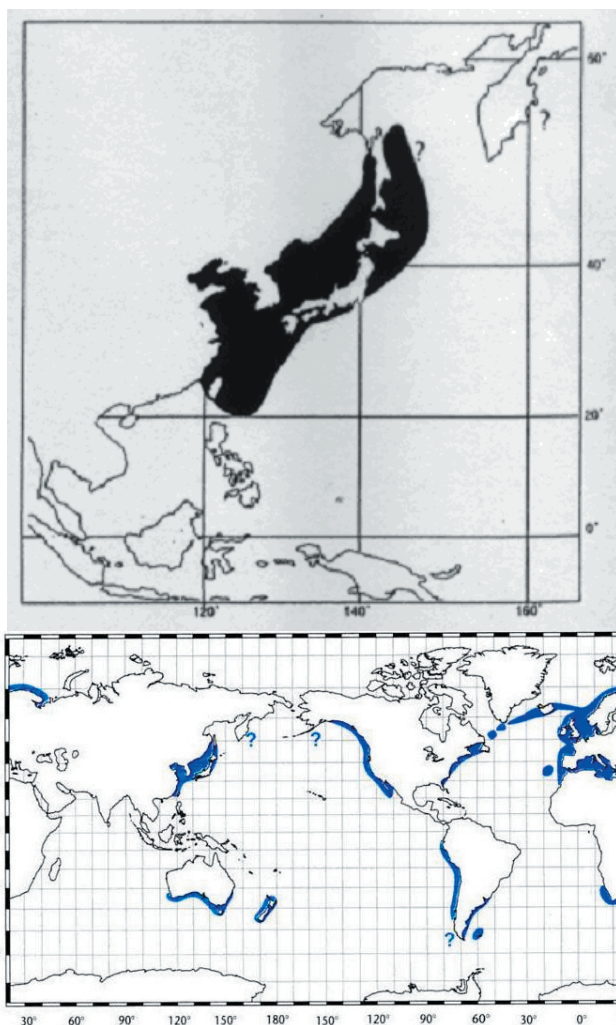


図1. ウバザメの分布 (内田 1995, Last and Stevens 1994)

【食性】ウバザメはプランクトン捕食者である大型の4種の板鰓類のうちの1種である（他の3種はジンベイザメ、メガマウスザメ、オニイトマキエイ）。大きな口を開けて遊泳し、鰓把でコペポータ、蔓脚類、十脚類、口脚類の幼生や魚卵などを濾しとって捕食する（Compagno 2001）。

資源状態

【資源の動向】表1に日本周辺におけるウバザメの年別出現数を要約した（漁獲を含む）。三重県波切で1960年代後半から1970年代前半に年間100尾程度の漁（突きん棒）があった後は、ウバザメを主目的とする漁業はなく、定置網への偶発的な迷入の記録である。定置網の入網記録はたまたま新聞記事などで記録された例があり、出現頻度を定量化するには難があるが、毎年数尾程度の記録が残っている。

1960年から1970年代にかけて三重県波切周辺に来遊してきたウバザメを年間およそ100頭近く漁獲していたころに比べれば、来遊量は明らかに減少しているであろう。しかし、それ以前にも継続して大量のウバザメが来遊していたわけではなく、大量の来遊は30年周期で起こるとい説もある。1970年代後半以降は、ウバザメを目的とする漁業はなく、全国の定置網に偶発的に迷入した記録があるのみである。定置網への迷入は長期にわたりほぼ一定の割合で発生しているように見える。日本周辺に来遊するウバザメの資源量は不明であるが、1970年代後半に観察された来遊量の減少以来、明らかな増減傾向は観察されていない。

【漁獲圧の動向】ウバザメに関しては本種を目的とする漁業がないので、ウバザメの迷入が観察される定置網の設置数を本種に対する漁獲圧と仮定して検討した（図2）。過去30年間で大型定置網の稼働統数は800から1980年代に900に増加し1990年代には再び800付近に減少した。小型定置の可動統数は1980年代前半に16,000ヶ統に達し、以後減少して2005年では約11,900ヶ統である。さけ定置網の数は期間を通じて増加し、約400から900ヶ統となった。3種類の定置網の合計では、1970年に約12,000ヶ統であったものが1980年代前半には最も多い約18,000ヶ統に達した。以後徐々に減少し、2005年では約13,500ヶ統になっている。これら定置網がウバザメに対し漁獲圧力となっているかどうかは不明であるが、仮に漁獲圧として働いているのであれば、1980年代から1990年代にかけて漁獲圧は徐々に減少していったことになるだろう。

管理方策

ウバザメが絶滅の危機にあるとして英国は2000年のワシントン条約第11回締約国会議において附属書Ⅱへの掲載を提案したが否決され、附属書Ⅲに掲載する修正提案を行った。2002年の第12回締約国会議で英国は、附属書ⅢからⅡへの修正提案を行い採決の結果3分の2以上の得票を得て可決された。

わが国には本種を目的とした漁業が存在しないので、積極的な漁獲努力は行われていない。

表1. 日本周辺におけるウバザメの年別出現記録。出現記録は文献情報等から要約した。波切（三重県）以外の地名はすべて県名である。

年	出現数	出現場所(県)
1940年代	100	波切 ⁴⁾ 、毎年100尾程度
1967	100	波切 ¹⁾
1968	100	波切 ¹⁾
1969	100	波切 ¹⁾
1970	100	波切 ¹⁾ 、和歌山 ⁴⁾
1971	101	波切、福島 ¹⁾
1972	100	波切 ¹⁾
1973	100	波切 ¹⁾ 、石川(1) ⁵⁾
1974	100	波切 ¹⁾
1975	153	三重、山口、波切 ¹⁾ 、福井 ⁸⁾
1976	20	波切 ¹⁾
1977	10	三重、波切 ¹⁾
1978	6	波切 ¹⁾
1979	11	石川 ¹⁾ 、三重(10) ²⁾
1980	2	兵庫、静岡 ¹⁾
1981	4	沖縄 ¹⁾ 、三重(3) ²⁾
1982	1	長崎 ¹⁾
1983	1	石川 ⁵⁾
1984	2	北海道、新潟 ¹⁾
1985	3	北海道、石川、島根 ¹⁾
1986	3	長崎(2)、静岡 ¹⁾
1987	1	沖縄 ¹⁾
1988	2	石川(2) ¹⁾
1989	1	静岡 ¹⁾
1990	4	福井(4) ⁸⁾
1991	1	福岡 ¹⁾
1992	1	鳥取 ¹⁾
1993	5	高知、兵庫 ¹⁾ 、石川 ⁵⁾ 、岩手(2) ⁶⁾ 、福岡 ⁸⁾
1994	7	高知、石川 ¹⁾ 、福井(2)、京都(2) ⁸⁾ 、岩手 ¹⁰⁾
1995	2	岩手(2) ³⁾
1996	1	宮城 ³⁾
1997	4	和歌山(4) ⁴⁾
1998	1	岩手 ⁶⁾
1999	2	岩手(2) ³⁾ 、石川 ⁵⁾
2000	2	石川 ⁵⁾ 、岩手 ¹⁰⁾
2001	3	宮城 ³⁾ 、石川 ⁵⁾ 、岩手 ¹⁰⁾
2002		
2003	4	岩手(2) ⁷⁾ 、京都 ⁸⁾ 、山口 ⁹⁾
2004	2	大分 ⁹⁾ 、岩手 ¹⁰⁾
2005		
2006	3	京都 ¹⁰⁾ 、宮城 ¹²⁾ 、岩手 ¹²⁾
2007	2	茨城 ¹¹⁾ 、岩手 ¹¹⁾
2008	1	静岡 ¹³⁾

- 出典： 1) 内田詮三（1995）
 2) 矢野憲一（1981）
 3) 自然資源保全協会（2002）
 4) 自然資源保全協会（2003）
 5) 自然資源保全協会（2004）
 6) 日本エヌ・ユー・エス（2004）
 7) 北九州市立自然史・歴史博物館
<http://www.kmnh.jp/check/011.html>
 8) 自然資源保全協会（2005）
 9) 水族館非公式ガイド(2006)
<http://hpcgi1.nifty.com/his-works/main.cgi>
 10) 日本エヌ・ユー・エス（2006）
 11) 板鰓類研究会報第43号（2007）
 12) インターネット（詳細不明）
 13) 板鰓類研究会報第44号（2008）

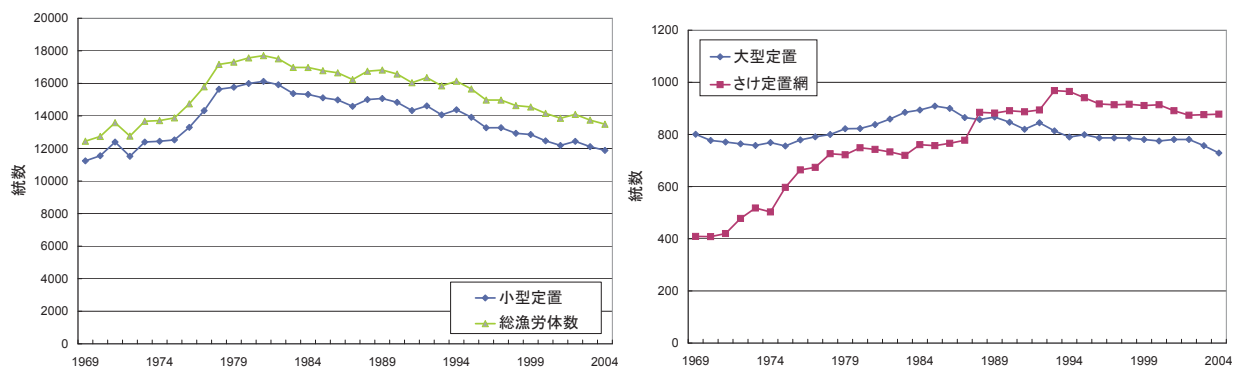


図2. 1970年から2003年までの日本沿岸における定置網漁労体数の推移。(農林省統計情報部 1972-1973、農林水産省統計情報部 1974-2003、農林水産省統計部 2004-2005)

ウバザメの資源の現況（要約表）

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	年間数尾から数十尾程度の迷入？
管理目標	検討中
資源の状態	検討中
管理措置	---
管理機関・関係機関	FAO, CITES

執筆者

業務推進部

中野 秀樹

まぐろ・かつおグループ

混獲生物サブグループ

遠洋水産研究所 混獲生物研究室

松永 浩昌

参考文献

Bigelow, H.B. and Schroeder W.C. 1948. Chapter three. Sharks. In Tee-Van, J., Breder, C.M., Hildebrand, S.F., Parr, A.E. and Schroeder, W.C. (eds.), Fishes of the western North Atlantic. Part 1. Vol. 1. Sears Foundation for Marine Research, Yale University, New Haven, Connecticut, U.S.A. 56-576 pp.

Compagno, L.J.V. 2001. Sharks of the world. An annotated and illustrated catalogue of shark species known to date. FAO Species Catalogue for Fishery Purposes No. 1 Vol. 2. 269 pp.

Last, P.R. and Stevens, J.D. 1994. Sharks and Rays of Australia. CSIRO, Australia. 513 pp.

日本エヌ・ユー・エス. 2004. 平成15年度ウバザメ Pop up tag 調査および、大型サメ類3種に関する情報収集調査結果報告. In 遠洋水産研究所 (編), 平成15年度国際資源調査等推進対策事業 混獲生物グループ報告書. 遠洋水産研究所, 静岡. 184-198 pp.

日本エヌ・ユー・エス. 2006. 平成17年度国際漁業混獲生物調査委託事業報告書. In 遠洋水産研究所 (編), 平成17年度国際資源調査等推進対策事業 混獲生物グループ報告書. 遠洋水産研究所, 静岡.

Matthews, L.H. 1950. Reproduction in the basking shark, *Cetorhinus maximus* (Gunnerus). Philos. Trans. R. Soc. Lond. B Biol. Sci., 234: 247-316.

農林省統計情報部. 1972-1973. 昭和50-51年 漁業・養殖業生産統計年報. 農林統計協会, 東京.

農林水産省統計情報部. 1974-2003. 昭和52年ー平成13年 漁業・養殖業生産統計年報. 農林統計協会, 東京.

農林水産省統計部. 2004-2007.. 平成14年ー17年 漁業・養殖業生産統計年報 (併載: 漁業生産額). 農林統計協会, 東京.

Parker, H.W. and Stott, F.C. 1965. Age, size and vertebral calcification in the basking shark, *Cetorhinus maximus* (Gunnerus). Zool. Meded., 40: 305-319.

自然資源保全協会 (編). 2002. 平成13年度サメ・海鳥保全管理プログラム作成等調査並びに鯨の利用の推進に関する啓蒙普及報

- 告書(現地調査および資料収集編). 自然資源保全協会, 東京. 74 pp.
- 自然資源保全協会(編). 2003. 平成14年度サメ・海鳥保全管理プログラム作成調査並びに鮫の利用の推進に関する啓蒙普及報告書(現地調査および資源評価レポート編). 自然資源保全協会, 東京. 155 pp.
- 自然資源保全協会(編). 2004. 平成15年度サメ・海鳥保全管理プログラム作成調査並びに鮫の利用の推進に関する啓蒙普及報告書(国内現地調査および啓蒙普及活動編). 自然資源保全協会, 東京. 34+16 pp.
- 自然資源保全協会(編). 2005. 平成16年度サメ・海鳥保全管理プログラム作成調査並びに鮫の利用の推進に関する啓蒙普及報告書(国内現地調査および啓蒙普及活動編). 自然資源保全協会, 東京. 34 pp.
- Springer, V.G. and Gold, J.P. 1989. *Sharks in Question*. The Smithsonian Institution Press. Washington D.C., USA. 187 pp.
- 田中彰. 2007. 大型板鰓類・稀少軟骨魚類の出現記録2006～2007. 板鰓類研究会報、43、27-30.
- 田中彰. 2008. 大型板鰓類・稀少軟骨魚類の出現記録2007～2008. 板鰓類研究会報、44、37-39.
- 内田詮三. 1995. 5. ウバザメ. In 日本自然保護協会(編), 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(II). 日本水産資源保護協会. 東京. 159-167 pp.
- 矢野憲一. 1981. サメのお伊勢まいり. アニマ, 99: 20-26.